

パモジヤ

2011年9月号

INDEX

- 1) 今月の1枚: 「暮らし」を見る
- 2) JICA in Tanzania: 「よりよい県農業開発計画作りと事業実施体制作り支援プロジェクト」
- 3) タンザニアのJiCho: 西村所員
「タンザニア・コーヒーのすすめ」

- (2) JICA in Tanzania: 技術協力
「よりよい県農業開発計画作りと事業実施体制作り支援プロジェクト」

新井 文令 専門家

(1) 今月の一枚: 「暮らし」を見る



Habari yako? こんにちは。JICA 新人研修にてタンザニア事務所に来ております山崎正則です。今月の写真はウルグル山(モロゴロ)の斜面に広がる畑です。自然が大好きな私は先日ウルグル山に登ってきました。標高は2000m弱。こんな高いところ、しかも急斜面にもきれいな畑があるとは、なんと小型のスプリンクラーまでついていて、自動で水がまかれています。近くには小川も流れていて、思っていた以上に水も豊富でした。学生時代に訪れたフィリピンの山村地域に似ている景色。

タンザニアでもこんな景色に出会えるとは正直驚きました。ここにもタンザニアの“暮らし”の一つがあるのですね。普段ダルエスサラームで見ているのは、タンザニアの“暮らし”のほんの一部にすぎないのだなと実感しました。

タンザニアにいても自分から動いてみると、タンザニアの“暮らし”は近いようでとても遠いです。自分の足でタンザニアの土の上を歩き、自分の目でタンザニアの“暮らし”を見る。まだまだ自分の知らないタンザニアの“暮らし”がたくさんある。その一つ一つを知っていくことで、自分ももっとタンザニアのことを好きになれる。そう感じた一日でした。

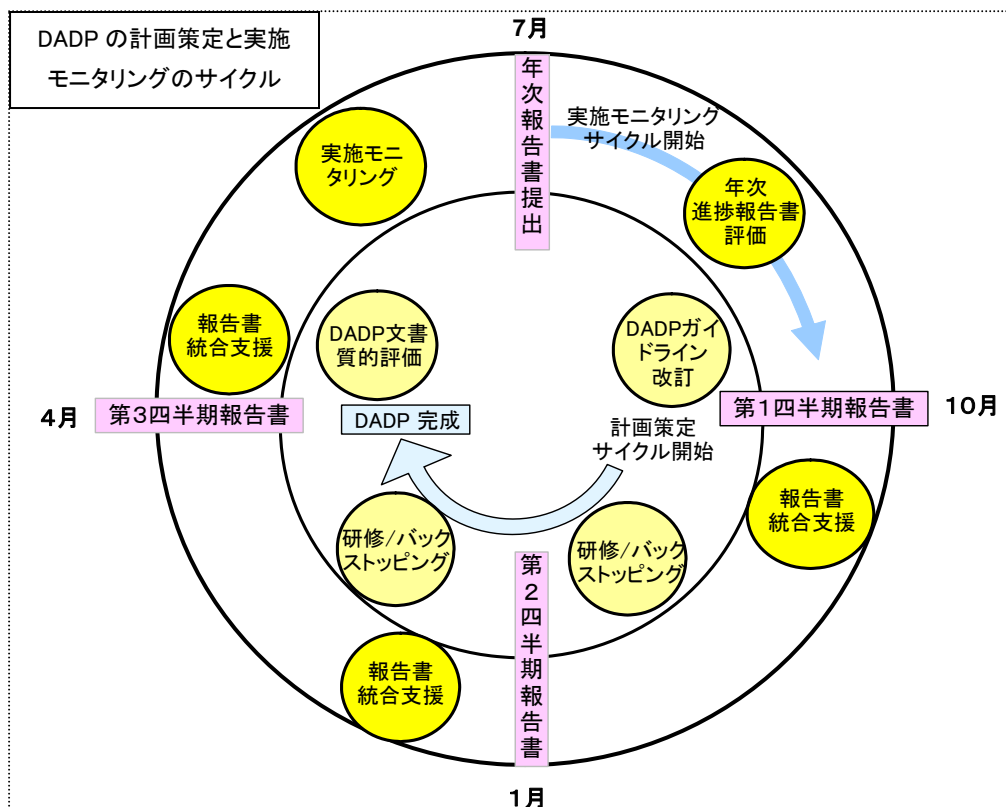
タンザニアは“Kilimo Kwanza(農業第一)”政策が進んでいます。人口の8割が農業従事者と言われる農業国タンザニア。貧困削減には農業セクターへの支援が欠かせません。ここでは、2009年から実施されている技術協力プロジェクトを紹介します。

背景:タンザニアでは、政府および開発パートナーが共同して開発政策を策定・実施する援助協調が進んでいます。農業セクターでも政府と開発パートナー(世銀、IFAD、日本、アイルランド等)が協調して農業セクター開発プログラム(ASDP)を策定し、またセクターバスケット基金を設立して2006年7月から開発を進めています。同プログラムでは地方(県)レベルの農業開発が重視されており、ASDPバスケット基金の75%が充当されています。県の農業開発は、県政府が毎年策定する県農業開発計画(DADP)に則り進められることとなっており、DADPの質の向上、そのための中央からの支援体制強化が重要な課題となっています。

本技術協力プロジェクト(技プロ)は、DADPの効果的作成・実施、及びその支援体制強化を目的とし2009年3月2012年3月の3年計画で実施しています。4名の専門家が、政府カウンターパート(DADP計画・実施作業部会および地方自治庁セクター調整局農業ユニット)と協力して活動しています。

活動:本技プロの活動は、DADPの策定支援、DADPの実施モニタリング支援に大別されます。前者については、DADP計画・実施作業部会とともに、ガイドラインの改訂、県職員への研修、DADP文書の質的評価等を支援しています。後者に関しては、地方自治庁セクター調整局農業ユニットとともに、DADP四半期報告書フォーマットの改訂、中央レベルの報告書統合支援、DADPアウトカム・データ





もまだフォーム上のことで内容が伴っていない場合が多いですが、県への技術指導・評価を通じて徐々に改善が進むものと期待されます。

DADP の実施モニタリング支援では、四半期報告書フォーマットの改善とその利用の徹底が図られました。技プロ開始当初は、県が提出する報告書のフォーマットが

収集支援等を行っています。また、2 州(モロゴロ州、コースト州)・4 県を重点支援地域として定期的に訪問しています。訪問では、州・県レベルの活動をモニタリングするとともに OJT 等により技術指導しています。

統一されておらず、中央での統合作業は非常に複雑なものでした。しかし、支援活動を通じてフォーマットが改善され、州を通じてその利用を促進したことで、現在はほとんどの県が統一されたフォーマットを使うようになりました。これにより中央でのデータ処理が効率化されました。

これまでの成果:

県行政の基本要素である県農業開発計画(DADP)が、当初の「開発事業の予算書の寄せ集め」から、曲がりなりにも「県農業の現状、問題把握、開発優先事項、事業計画、予算、M&E等を含む計画書」になってきたのは大変うれしく思っています。これらの改善はまだフォーム(形式)上だけのことですが、DADPの策定を毎年繰り返す中で、実効的な計画の視点も徐々に理解されつつあると思われま。また、中央政府が毎年定期的にDADPの質的評価を実施(写真1)するようになったことも成果の一つと言えます。評価内容も毎年改善され、昨年度は、DADPの個別事業の審査も初めて行われました。さらに、一昨年からDADPに個別開発事業の概要書を添付することが義務付けられました。概要書には事業の目的・効果・実施主体・費用便益分析等を含めることになっています。これら



写真1

今後の課題: DADP に関してはまだ多くの課題があります。一つは、形式上でなく実際の内容面での改善を進めることです。これらについては、DADPの戦略性・包括性(県の全体計画との連携)、民間セクターの活用拡大等に関し、さらに働きかけを続ける予定です。実施モニタリングについては、通常の事業実施報告に加え繰越金に関する報告、アウトカム・データの報告等につき改善を進める方針です。2012年3月まであと約7カ月を残すのみですが、カウンターパートの自立性を醸成しつつDADPの一層の改善に努めたいと考えています。



DADPで耕運機を導入した県



(3) クリコニ? :8月のできごと

7月28日～8月5日：教師海外研修

今年は9名の関西地方の現職の先生方がタンザニアを訪問しました。タンザニア国内でもインフラが遅れていると言われる南東部のムトワラ、マサシ、ナチングウェア、タンダヒンバなどを訪問して主に隊員の活動視察を、そしてダルエスサラームでは技術協力「保健人材開発強化プロジェクト」と「効率的な送配電システムのための能力開発プロジェクト」のそれぞれの研修現場を視察しました。それぞれの場で人材育成に努める姿に、時間はかかるけれどもとても重要な活動であること、日本人にとって当たり前のことが現地には相当の努力が必要なことなどを実感されていました。



日本とはまったく異なる生活状況を体験し、「持続可能な開発」を模索する機会になったようです。今後は、それぞれの学校現場で日本の子どもたちと「タンザニアでの体験」を共有されていく予定です。

(写真：小学校での交流授業-体育)



【ルスモ国際橋及び国境手続円滑化施設整備計画・
ダルエスサラーム市交通機能向上計画（詳細設計）】

8月29日：無償資金協力2件、贈与契約締結

無償資金協力2件の贈与契約がタンザニア国財務省ムクロ大臣と勝田タンザニア事務所長との間で交わされました。

「ルスモ国際橋及び国境手続円滑化施設整備計画」では、タンザニアとルワンダの国境を跨ぐルスモ国際橋の架け替えと OSBP(One Stop Border Post)の導入によって、国境通過時間の大幅な短縮が見込まれ、タンザニア・ルワンダ両国及び周辺各国の経済発展に大きく寄与すると期待されています。

「ダルエスサラーム市交通機能向上計画(詳細設計)」では、ゲレザニ道路(約1.3km)の拡幅のための詳細設計を行います。通勤・通学ラッシュ時のカマタ - キルワ道路間の所要時間が大幅に短縮されると見込まれ、渋滞緩和と共にタンザニアの人々の日々の暮らしの変化が期待されています。

* OSBP:通常、出国・入国時にそれぞれの国で手続きを行う必要がある(2ストップ)ところを1ヶ所の国境施設にて出国・入国両方の手続きを行う施設。国境手続きの短縮が見込まれる。

【青年海外協力隊】久保智里さん(20年1次隊)・伊藤隼人さん(20年3次隊)製作絵本が出版社書隊員の久保さんとデザイン隊員の伊藤さんが協力して製作したスワヒリ語の絵本が、タンザニアの出版社によって出版されました。久保さんは、活動の中で会う子どもたちが厳しい生活環境にいることも知り、「子どもたちに想像の中で楽しむ術を伝えたい。心に力をつけてあげたい。」との思いを強くしていました。そんな久保さんの思いに賛同した伊藤さんがデザインの協力をしてくれ、素敵な絵本ができあがりました。二人の絵本はタンザニアの出版社に取り上げてもらい、この8月、出版にこぎつけました。

今後、約100冊が二人の希望で、タンザニア各地の子どもの施設に贈られ、活用される予定です。



(4) タンザニアの JICho:「タンザニア・コーヒーのすすめ」

西村 恵美子 所員

先日、キリマンジャロ山の麓のモシという町に出張してきました。ちょうど運よく晴れていて、5895メートルの山の頂まできれいにみることができました！

さて、キリマンジャロと言えばコーヒー、というのは日本でも有名だと思います。キリマンジャロのコーヒーは、1900年頃からドイツ人やイギリス人のプランテーションによって栽培されてきました。

ない途上国は決して豊かにならないという構造により、自国で最高レベルのコーヒーを生産しながらも、生豆のまま外国に買い叩かれ、逆



に、外国から輸入したインスタントコーヒーをアフリカ人が高い金を出して飲むというおかしな現象が続いていました。その現象に、矛盾と憤りを感じ、「せめてまずは、東アフリカだけでも、アフリカ人が自分たちで作った最高級のコーヒーから作った、最高に美味しいインスタントコーヒーを飲めるようにしましょう」という考えを持ち、それを実行したのが初代タンザニア大統領ニエレレ(1922-1999)だったのです。ニエレレ大統領の命を受け、「アフリカの最高のコーヒー豆から作った、世界一美味しいインスタントコーヒーを世界の食卓へ」をモットーに、おしげもなく極上のコーヒー豆を贅沢に使いながら、アフリカフェが作られつづけてきたということです。(アフリカフェQ&Aホームページより)

そんなアフリカフェ、日本でも輸入食材店や通販で買うことができるようです。(値段は現地より若干高めですが…)よく溶けるのでホットでもアイスでも、お菓子作りにも使えます。ぜひお試しを！



モシで見つけたセブンイレブン?!

今回、モシの町で、美味しいコーヒーの飲めるすてきなカフェを発見しました。その名は「UNION(連合)カフェ」。「Kilimanjaro Native Cooperative Union(キリマンジャロ原住民協同組合連合会)」というところが経営母体になっていて、お店ではコーヒーや軽食が楽しめるほか、

コーヒー(豆&粉)を買い求めることもできます。この組合ですが、1930年にコーヒー農家によって設立された、アフリカで最古の協同組合なんだそうです。

ところで、タンザニアでコーヒーといえば、都市から地方まであらゆるスーパー、キオスク等で売られている、タンザニアが誇る国民的コーヒー、その名も「アフリカフェ」です。インスタントコーヒーながら極上の味わいという触れ込みで、実際インスタントの割にはなかなか美味しいです。

アフリカフェは、キリマンジャロ地方ではなく、タンザニアの北西部、ビクトリア湖のほとりのブコバという町で作られた上質の豆を使って作られています。

このアフリカフェが作られた経緯というのは、少し感動的です。

1960年代、アフリカで各国の独立が相次ぎました。しかし、独立後も、植民地政策の落とし子ともいえるプランテーションから生産された農産物は、あくまでも原料として先進国に買い叩かれ、輸出できるレベルの製品を製造する力の



(5)カリブ・クワヘリ

～ようこそタンザニアへ！ お元気で、さよなら！～

タンザニア事務所インフラ担当企画調査員として
橘さんが9月末に着任します。

皆様、はじめまして、橘と申します。企画調査員(インフラ)として、道路・電力等の分野を担当させて頂くことになりました。アフリカの地は、8年ほど前にウガンダにいたことがあるのと、出張ベースでは何回も訪問しておりますが、長期滞在は今回が初となります。

私にとっての憧れの地であるタンザニアということで、業務・生活ともに楽しみにしています。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

橘 英輔(たちばな えいすけ)

農業セクターへの技術協力「**農業セクター開発プログラム事業実施監理能力強化計画フェーズ2**」が始まりました。

タンザニア農業セクターでは、中央・地方レベルの開発計画を策定するために従来より農業データ定期報告制度(ARDS)がありましたが、データ内容・フォーマットの不統一等から効果を十分発揮していませんでした。一方、農業セクターの包括的な開発を目的に2006年から農業セクター

～ようこそ！タンザニアへ！～

開発プログラム(ASDP)が開始され、そのモニタリング・評価(M&E)のためにも効果的なARDSの重要性が認識されました。



農業普及員への研修の様子(フェーズ1にて)

これを受け、JICAは、2008年3月～2011年3月に「**農業セクター開発プログラム事業実施監理能力強化計画(フェーズ1)**」を実施し、モロゴロ州とドドマ州をパイロットとしてARDSの改善、州・県職員及びデータ収集の最前線に立つ農業普及員の研修・能力強化を実施しました。フェーズ2では、パイロットでの取り組みを通じて整備されたARDSの更なる改善・全国展開、農業データの効果的収集、さらにそれに基づくASDPの適切なモニタリング・評価の実現を目指して実施されます。期間は2011年8月～2015年6月の4年間、農業セクター関連省庁職員から成るASDP M&E作業部会をカウンターパートとして、国際開発センターのメンバー5人の専門家チームで実施します。ARDSの全国展開でタンザニア全国を飛び回る忙しいプロジェクトになると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(総括 新井 文令)

リレーエッセイ
～Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania～

(21-4次隊 岩崎 奈穂さん)

学校の受付で皆を笑顔で迎えるエミー。素敵な笑顔とチャームな性格で周りをぱっと明るくしてしまう彼女。同じ教員住宅地で一人暮らし同士なので、一緒に夕食を食べ、夜遅くまで女子トークで盛り上がることもしばしば。嫌なことや悲しいことがあっても私に癒しと元気を与えてくれる素敵女子です。



次回は、実はカメラマン?!
ムベヤの宮本隊員です!



運輸・交通セクターへの技術協力「**タンザニア国全国物流マスタープラン調査**」が8月下旬より始まりました。



タンザニアの物流の拠点、ダルエスサラーム港。港の機能向上が物流円滑化の鍵。

本調査は、物流（貨物輸送）円滑化のための、全国レベルの運輸交通マスタープラン調査として開始されました。道路、鉄道、海港、湖上

港、貨物積替施設、ICD、国境、交通関連法制度、通関システムなど、貨物輸送に関わる様々な分野を対象とし、これらを統合する複合一貫的な輸送システムを短期・中期・長期と段階的に構築することを目的としています。この調査の実施担当機関は運輸省ですが、建設省や産業貿易省、財務省、下部機関である道路公社・鉄道公社・港湾局・歳入庁などとも連携を取りながら、タンザニアのみならず東部アフリカ地域全体の開発計画を補完する経済・産業成長のための計画策定を目指します。

この調査を実施する JICA 調査団は、パデコ、日本工営、国際開発センターの JV で、計 26 人のメンバーから構成されます。8 月下旬の調査第 1 週目は、団長と団員 1 名の計 2 名体制で、JICA 担当者とともに、関係省庁の事務次官や主要関係者への調査内容の説明を行いました。また、調査団事務所を運輸省内に開設し、タンザニアでは初めての全国レベルの大規模交通調査の実施準備を開始しました。第 2 週目より 3 名の団員が加わり、9 月半ばには全団員が揃う体制となります。2012 年 10 月まで計 15 カ月間に亘り、調査活動を実施していきますので、どうぞ宜しくお願い致します。（調査団 八田麻沙子）

水セクターへの技術協力「**村落給水事業実施・運営維持管理能力強化プロジェクト：フェーズ 2**」が 9 月より始まりました。

「**村落給水事業実施・運営維持管理能力強化プロジェクトフェーズ 2**」は、村落部での安全な水供給率の向上を目指して、そのために必要な、水省や地方自治体など政府関係者の事業実施・管理能力の強化を行います。英文名称の頭文字などをもって、通称「RUWASA-CAD」と呼ばれています。2007 年から 2010 年にかけて東部海岸沿いの 4 州をパイロット地域として実施されたフェーズ 1 では、研修パッケージを開発し、それらを活用しながら関係者の能力強化を行いました。フェーズ 2 では、それらの成果の全国展開を計画しています。

水セクターでは、2007 年から水セクター開発プログラム (WSDP) が実施されており、「MKUKUTA II」で掲げられた「2015 年までに地方部の給水率が 65%に向上する」という目標達成を目指して、タンザニア政府と援助機関が協調しながら活動しています。RUWASA-CAD は、タンザニア政府が、政府予算や WSDP バスケットファンドを活用しながら村落給水事業をより円滑に実施していくことができるようになることを目指しています。一日でも早く住民が安全な水を得られることを願って、多くの関係者との交流を大切にしながら活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



水省地方給水局との打ち合わせ

(総括 末永 和幸)

パモジャ (Pamoja) 編集部：皆様からのご意見や、Good な情報の提供をお願いします！

adachifumiko.tz@jica.go.jp

JICA タンザニア事務所：P.O.BOX 9450 Dar es Salaam
Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976

<http://www.jica.go.jp/tanzania/>

